



**ソフトバンクグループ株式会社**

第 41 回定時株主総会

2021 年 6 月 23 日

## イベント概要

---

[日程]	2021年6月23日
[時間]	午前10時～午前11時29分（開催時間：1時間29分）
[開催場所]	東京都港区海岸一丁目7番1号 東京ポートシティ竹芝 オフィスタワー1階 ポートホール
[出席者]	11名
	代表取締役 会長兼社長執行役員 孫正義（以下、孫）
	取締役 副会長執行役員 ロナルド・フィッシャー
	取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO 兼 CSusO 後藤 芳光
	取締役 宮内 謙
	取締役 サイモン・シガース
	社外取締役 独立役員 飯島 彰己
	社外取締役 独立役員 松尾 豊
	社外取締役 独立役員 リップブー・タン
	社外監査役 独立役員 遠山 篤
	社外監査役 宇野 総一郎
	社外監査役 独立役員 窪川 秀一
[報告事項]	<ul style="list-style-type: none"><li>・2020年度（2020年4月1日から2021年3月31日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件</li><li>・2020年度（2021年4月1日から2021年3月31日まで）計算書類報告の件</li></ul>

---

**[決議事項]**

第 1 号議案 剰余金の処分の件

第 2 号議案 定款一部変更の件

第 3 号議案 取締役 9 名選任の件

第 4 号議案 監査役 3 名選任の件

第 5 号議案 監査役の報酬額改定の件

## 登壇

孫：おはようございます。ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）代表取締役 会長兼社長執行役員の孫 正義でございます。

株主の皆さまには、大変ご多忙のところご出席いただき、誠にありがとうございます。

### 株主の皆さまへ



代表取締役 会長兼社長執行役員

孫 正義

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社の第41回定時株主総会招集ご通知をお届けいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大は収束の兆しが未だに見えていませんが、2020年度は、当社傘下にあるソフトバンク・ビジョン・ファンド<sup>(注1)</sup>の業績が韓国Coupangや米国Doordashなどの投資先の価値上昇などで順調に推移し、連結純利益<sup>(注2)</sup>が4兆9,880億円となりました。

コロナ危機下で「守り」を固めるために2020年3月に発表した4.5兆円の保有資産の売却または資金化の方針（4.5兆円プログラム）については、2020年9月末までに5.6兆円の資産の売却および資金化を完了し、自己株式を2021年5月12日までに2兆円取得<sup>(注3)</sup>するとともに、負債を2020年度末までに1

兆円削減しました。これをもって本プログラムは終了しました。

このほか、2020年9月、当社100%子会社のArmの全株式<sup>(注4)</sup>を、米国NVIDIA社に対して取引価値を最大400億米ドルと評価した取引で売却することについて、最終的な契約の締結に至りました<sup>(注5)</sup>。この取引によって、AI時代の最高峰のコンピューティングカンパニーが誕生すると期待しています。

ソフトバンクグループは、「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、NAV<sup>(注6)</sup>のさらなる向上に取り組んでまいります。株主の皆さまにおかれましては、ご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2021年6月8日

(注1) ソフトバンク・ビジョン・ファンド1およびソフトバンク・ビジョン・ファンド2  
(注2) 親会社の所有者に帰属する純利益  
(注3) 4.5兆円プログラム以前に決定された自己株式の取得5,000億円（取得期間2020年3月16日～2020年6月15日）を含めた場合、総額2.5兆円の自社株買いを実施  
(注4) SVF保有分を含む  
(注5) 本取引は、英国、中国、EUおよび米国を含む必要な規制当局の承認、その他のクロージング要件の充足を条件とします。また、本取引の完了までには最終契約の締結から約18カ月かかると見込んでいます。  
(注6) Net Asset Value、保有株式価値-調整後有利子負債で算出

それでは、定款第13条の定めにより、私が議長を務めさせていただきます。第41回定時株主総会を開会いたします。

本総会は、専用のサイトを通じて、議決権行使や質問などが可能なインターネット出席の方法を採用しています。なお、監査役 須崎 将人は、やむを得ない理由により欠席をしています。また、株主の皆さまからのご発言、議決権行使などは、全て専用サイトから受け付けています。

なお、本日の質問などはすでに受付を開始しています。締め切りは、質疑応答の開始後、5分とさせていただきます。また、ご質問はお一人様1問とさせていただきます。

本会議の目的事項は、招集通知3ページに記載の通りです。併せて、議決権数で定足数を満たしていることを報告します。

報告事項は招集通知27ページから69ページ、および当社ウェブサイトに掲載の通りです。

また、事業概要のビデオを用意していますので、ご覧ください。

**ビデオ**：AI革命に全てを投じる。2020年度のSBGは揺るぎないビジョンをもって、ビジネスモデルの変革をリードする世界中の企業群とともに、AI革命を牽引しました。

2020年度の売上高は、前期比7.4%増の5兆6282億円となりました。

投資損益は、7兆5,290億円となりました。純利益は4兆9,880億円となり、創業以来最高益となりました。中間配当の22円と合わせた2020年度の年間配当は、1株当たり44円となり、2021年度の配当予想は2020年度と同額としております。

ユニコーンを中心に、AIを活用した成長可能性の大きな企業へ投資するソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）では、韓国ナンバーワンのeコマースカンパニー、クーパン、米国ナンバーワン、オンラインフードデリバリーを提供するドアダッシュなど、投資先の上場や、世界最大級、モビリティ&デリバリーサービスを提供するウーバーなど、上場企業の株価上昇などが要因となり、大きな損失を出した前期から一転、V字回復を果たしました。

投資利益は、6兆2,920億円を計上。2021年3月末現在、2017年に活動を開始したSVF1では、上場14社を含む92社への投資を実行。また、2019年に活動を開始したSVF2では、上場3社を含む44社への投資を実行。

SVFを運営するSB Investment Advisersは、今年度も投資先の発掘や分析に注力し、各分野における専門性を高めることに加え、投資先企業同士のシナジー創出を支援することで、一層の拡大を図っていきます。

急速に成長するラテンアメリカ市場における、テクノロジー企業に投資するソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド（以下「LatAm ファンド」）では、投資利益を 1,966 億円計上。2021 年 3 月末現在、投資先数は 37 社となり、拡大を続けています。

日本国内で主に通信事業を営むソフトバンク株式会社（以下「SBKK」）は、引き続き成長戦略である Beyond Carrier 戦略を推進。従来の通信キャリアの枠組みを超え、通信事業に加えて、ヤフーおよび新領域の三つの領域を伸ばすことにより、収益基盤を強化し、持続的な成長を目指しています。

ソフトバンク事業の 2020 年度のセグメント利益は、主に Z ホールディングス株式会社や法人向け事業が好調に推移したことにより、前期比 4%増加の 8,479 億円となりました。2021 年 3 月、SBKK の子会社である Z ホールディングス株式会社と、LINE 株式会社との経営統合が完了。

これにより、SBKK は巨大な通信ネットワークを基盤に、ヤフーが運営するインターネットメディアと e コマース、PayPay のスマートフォン決済プラットフォーム、そして、LINE という日本最大のメッセージアプリを併せ持つ、日本有数のプラットフォーム企業となりました。

2021 年 4 月には、長年同社の最高技術責任者を務めていた宮川 潤一が新社長に就任。今後は、Beyond Carrier 戦略を第 2 フェーズに移行させ、AI や 5G などの先端テクノロジーを駆使しながら、さらなる成長を追求します。

SBG は、戦略的投資持株会社として、直接または子会社を通じて投資活動を行っており、それらの投資の成果として、当期は 9,461 億円の投資利益を計上しました。主な投資先の一つである T モバイルへの投資については、保有株式を一部売却し、株式売却関連利益 4,218 億円を計上した他、引き続き保有する同社株式に関する評価益 4,472 億円などを計上しました。なお、T モバイル株式売却と株式を活用した借入により、合計 2.4 兆円の資金化を実現しました。

中国などで主に e コマース事業を展開するアリババグループへの投資について、持分法投資利益 5,725 億円を計上しました。アリババの事業は、中核事業である e コマース事業やクラウド事業などが引き続き順調に拡大し、2021 年 3 月期は前期に比べ売上高 41%増、純利益 30%増となりました。

半導体の IP のライセンス事業を営むアームは、ライセンサーによる 5G スマートフォンの出荷と、5G 基地局へのネットワーク機器の導入が大幅に増加したことに加えて、サーバー向けチップの出荷増加も寄与し、アーム事業の売上高は前期比 6.5%増の 2,098 億円となりました。

---

SBG による買収以降、アームが研究開発投資を強化してきた結果、サーバーや AI 向けプロセッサなども含む、幅広いテクノロジーポートフォリオを持つに至りました。なお、2020 年 9 月にアームの全株式を米国のエヌビディアに対して、最大 400 億ドルの取引価値で売却することについて、最終的な契約を締結するに至りました。

本取引完了後も、SBG はエヌビディアの主要株主として、長期的な成功に引き続き貢献していきます。本取引によって、アーム CPU のエコシステムとエヌビディアの最先端 AI 技術が融合し、AI 時代の最高峰のコンピューティングカンパニーが誕生すると期待しています。

2020 年 3 月に発表した 4.5 兆円の当社保有資産の売却、または資金化による自己株式取得と、負債削減などを通じた財務改善のためのプログラムでは、T モバイル、アリババグループ、SBKK の株式の一部売却および資金化によって、当初予定を上回る 5.6 兆円の資金化を実現しました。

株主還元の充実を目的とした自己株式取得では、4.5 兆円プログラムに先立って発表した 5,000 億円の取得枠と合わせ、2.5 兆円分の取得を 2021 年 5 月 12 日に終了。また 2021 年 5 月 20 日までに、2.5 兆円分の自己株式の消却を完了。

さらに、財務改善を目的とした借入金の返済や社債の買入についても、総額 1 兆円分を実行しました。今後も財務の安定性を確保しつつ、余剰資金を魅力的な投資機会を捉える資金とし、さらなる成長を目指していきます。

社会の持続的な発展と、ソフトバンクグループの中長期的な成長のため、環境、社会、ガバナンスに関するさまざまな取り組みを行っています。

特に 2020 年初頭から継続する新型コロナウイルスの感染拡大に対して、SBG では 2020 年 7 月に感染拡大防止と経済活動の早期正常化を目的に、スクリーニング検査として唾液 PCR 検査を提供する子会社を設立。現在、SB 新型コロナウイルス検査センター株式会社として、高品質で安全な PCR 検査を実費負担のみの低価格で、自治体、企業や団体、個人に提供し、今年 5 月には検査数が 100 万件に達しました。

この他、温室効果ガス削減や多様性が尊重される社会の実現など、企業としての責任にグループ一丸となって取り組んでいきます。

SBG は、情報革命時代の戦略的持ち株会社として、新しいビジネスモデルやテクノロジーの発展を加速させ、株主価値の最大化を目指し、これからもまい進していきます。

「情報革命で人々を幸せに」。

**孫：**以上、ビデオにより説明をいたしました。

---



それでは、ここで本日の決議事項を上程の上、内容を説明します。今後の進行につきましては、決議事項等の説明の後、報告事項および全ての決議事項について一括して質疑応答を行い、質疑応答後は、決議事項の採決のみをさせていただきます。このような進行に賛成いただける方は、専用サイトで拍手ボタンをクリックしてください。

それでは、決議の結果を確認いたします。

ご入力ありがとうございました。賛成が過半数に達しましたので、この方法で行わせていただきます。

### 第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、財務体質の健全性を保ちつつ、持続的成長に向けた積極的な投資と株主の皆さまへの利益還元を両立させることを基本方針としています。このような方針のもと、剰余金の配当につきましては、中間配当と期末配当の2回実施を原則として、当期の期末配当金を、次のとおりとしたいと存じます。

なお、中間配当（1株当たり22円）と合わせた年間配当は、1株当たり44円となります。

---

1 配当財産の種類  
金銭

---

2 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額  
当社普通株式1株につき22円  
総額 38,247,368,346円

---

3 剰余金の配当が効力を生じる日  
2021年6月24日

---



## 第2号議案 定款一部変更の件

### 1. 変更の理由

- (1) 当社の事業の現状に即し、事業内容の明確化を図るため、現行定款第2条を変更するものです。
- (2) 国会において「産業競争力強化法等の一部を改正する等の法律」(2021年2月5日閣議決定。以下「改正産競法」といいます。)が成立し、新たに上場会社に場所の定めのない株主総会(いわゆるバーチャルオンリー株主総会)の開催が認められることを条件に、遠隔地の株主など多くの株主が出席しやすくなることで、株主総会の活性化・効率化・円滑化につながり、また、新型コロナウイルス感染症等の感染症への対策にも資するバーチャルオンリー株主総会を開催することができるよう、定款第11条第2項を追加するものです。  
なお、第11条第2項の定款変更の効力発生に関しては、本株主総会での決議に加え、国会における改正産競法の成立、および、株主の利益の確保に配慮しつつ産業競争力を強化することに資する場合として経済産業省令・法務省令で定める要件に該当することについて、経済産業省令・法務省令で定めるところにより、経済産業大臣および法務大臣の確認を受けることを条件とします。
- (3) 持株会社としての企業経営における迅速で的確な意思決定を目的として、現行定款第18条について、取締役の員数の上限を15名以内から11名以内に変更するものです。
- (4) 最適な経営体制の機動的な構築を可能とするため、取締役だけではなく、取締役以外からも社長を選出できるよう、現行定款第23条を変更するものです。また、これに伴い、文言の加除、修正等所要の変更を行うものです。
- (5) コーポレート・ガバナンス体制の強化の観点から経営の透明性をより高めることを目的として、相談役制度を廃止するため、現行定款第29条を削除し、以下条数を繰り上げるものです。

## 2. 変更の内容

(下線は変更部分)

現行定款	変更案
(目的)	(目的)
第2条 当社は、国内外において次の事業を営む会社の株式または事業体の持分を取得・所有することにより、当該会社・事業体の事業活動を支配・管理することを目的とする。	第2条 当社は、国内外において次の事業を営む会社の株式または事業体の持分を取得・所有することにより、当該会社・事業体の事業活動を支配・管理することを目的とする。
(新設)	1. <u>有価証券の取得、保有および運用に関する事業</u>
	2. <u>投資事業組合財産の運用および管理に関する事業</u>
	3. <u>経営一般および株式公開に関するコンサルティングに関する事業</u>
1.~2. (省略)	4~5. (現行どおり)
(新設)	6. <u>通信ネットワークおよび電子技術を利用したソフトウェアの開発、製造、販売、管理、賃貸に関する事業</u>
	7.~9. (現行どおり)
3.~5. (省略)	10. <u>電子決済に関する事業</u>
(新設)	11.~22. (現行どおり)
6.~17. (省略)	② (現行どおり)
② (招集)	(招集)
第11条 (省略)	第11条 (現行どおり)
(新設)	② <u>当社の株主総会は、場所の定めのない株主総会とすることができる。</u>
(招集者および議長)	(招集者および議長)
第13条 株主総会は、法令に別段の定めがある場合のほか、取締役会の決議にもとづき取締役社長が招集し、その議長となる。	第13条 株主総会は、法令に別段の定めがある場合のほか、 <u>あらかじめ取締役会の定める取締役が招集し、その議長となる。</u>
② 取締役社長に事故あるときは、あらかじめ取締役会の定める順序により他の取締役がこれに代わる。	② <u>前項の取締役に事故あるときは、あらかじめ取締役会の定める順序により他の取締役がこれに代わる。</u>

(下線は変更部分)

現行定款	変更案
<p>(取締役の員数) 第18条 当社の取締役は<u>15</u>名以内とする。 (取締役会の招集者および議長) 第21条 取締役会は、法令に別段の定めがある場合のほか、取締役社長が招集し、その議長となる。 ② 取締役社長に事故あるときは、あらかじめ取締役会の定める順序により他の取締役がこれに代わる。</p> <p>(役付取締役) 第23条 当社は、取締役会の決議により、取締役の中から取締役社長1名を置き、必要に応じてその他の役付取締役各若干名を置くことができる。</p> <p>(代表取締役) 第24条 取締役社長は、<u>当</u>会社を代表する。</p> <p>② <u>取締役社長のほか、取締役会の決議によって、取締役の中から当</u>会社を代表すべき取締役を選定することができる。</p> <p>(取締役の業務執行) 第26条 取締役社長は当社の業務を統轄する。</p> <p>② 取締役社長に事故あるときは、あらかじめ取締役会の定める順序により他の<u>取締役</u>が取締役社長の職務を代行する。</p> <p>(相談役) 第29条 取締役会の決議をもって、相談役若干名を選任することができる。</p> <p>第30条～第44条 (省略)</p>	<p>(取締役の員数) 第18条 当社の取締役は<u>11</u>名以内とする。 (取締役会の招集者および議長) 第21条 取締役会は、法令に別段の定めがある場合のほか、<u>あらかじめ取締役会の定める</u>取締役が招集し、その議長となる。 ② <u>前項の</u>取締役に事故あるときは、あらかじめ取締役会の定める順序により他の取締役がこれに代わる。</p> <p>(社長および役付取締役) 第23条 当社は、取締役会の決議により、社長1名を置く。また、<u>当</u>会社は必要に応じて<u>取締役会の決議により、取締役の中から役付</u>取締役各若干名を置くことができる。</p> <p>(代表取締役) 第24条 <u>当</u>会社は、取締役会の決議により、<u>取締役の中から当</u>会社を代表すべき取締役を選定する。 ② <u>代表</u>取締役は、<u>当</u>会社を代表する。</p> <p>(業務執行) 第26条 社長は、<u>取締役会の定める業務の分担に従い、当</u>会社の業務を統轄し、業務を執行する。 ② 社長に事故あるときは、あらかじめ<u>取締役会の定める順序により他の者</u>が社長の職務を代行する。</p> <p>(削除)</p> <p>第29条～第43条 (条数の繰り上げ)</p>

招集通知

株主総会参考書類

事業報告

連結計算書類

計算書類

監査報告書

10

第2号議案は定款一部変更の件、この詳細は招集通知8ページから10ページに記載の通りです。

### 第3号議案 取締役9名選任の件

現任取締役9名は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役9名の選任をお願いするものです。

取締役候補者は次のとおりです。

候補者 番号	氏名	現在の当社における地位
1	再任 孫 正義	代表取締役 会長兼社長執行役員
2	再任 後藤 芳光	取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO 兼 CSusO
3	再任 宮内 謙	取締役
4	新任 川邊 健太郎	—
5	再任 飯島 彰己	社外取締役 独立役員
6	再任 松尾 豊	社外取締役 独立役員
7	再任 リップブー・タン	社外取締役 独立役員
8	新任 襟川 恵子	社外取締役 独立役員
9	新任 ケン・シーゲル	社外取締役

第3号議案は取締役9名選任の件、この詳細は招集通知11ページから19ページに記載の通りです。

なお、取締役の川本 裕子氏は人事院総裁に就任が決まりましたので、昨日、6月22日付で辞任されました。おめでとうございます。ぜひ川本さんには日本の将来のために、人事院の総裁としてぜひ頑張っていたいただきたいと思います。

#### 第4号議案 監査役3名選任の件

現任監査役4名のうち、須崎 将人氏、宇野 総一郎氏および窪川 秀一氏の3名は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、監査役3名の選任をお願いするものです。

なお、本議案の提出につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりです。

候補者 番 号		氏 名		現在の当社における地位
1	新任	なかた ゆうじ 中田 裕二	社外監査役 独立役員	—
2	再任	うの そういちろう 宇野 総一郎	社外監査役	監査役
3	新任	おおつか けいいち 大塚 啓一	社外監査役 独立役員	—

第4号議案は監査役3名選任の件、この詳細は招集通知20ページから22ページに記載の通りです。



## 第5号議案 監査役の報酬額改定の件

当社の監査役の報酬額は、1990年6月28日開催の第10回定時株主総会において、年額8,000万円以内とご承認いただき今日に至っておりますが、その後の経済情勢の変化等、諸般の事情を考慮して、監査役の報酬額を年額1億6,000万円以内と変更させていただきたいと存じます。

なお、現在の監査役の員数は4名（うち社外監査役3名）ですが、第4号議案が原案どおり承認可決されますと監査役は4名（うち社外監査役4名）となります。

以上

第5号議案は監査役の報酬額改定の件、この詳細は招集通知24ページに記載の通りです。

# SoftBank とは？ Group

2

それでは、ただ今から、今後の事業戦略を私自身がプレゼンします。

SBG、SBG とはなんぞやということを、特にこの3~4年、多くの人に問われてきました。

事業家としての孫正義は好きだけど、投資家としての孫正義は好きじゃないと、こういうことも多くの方に言われました。私自身、単なる投資家とはちょっと違うんだけどなということで、自分としては説明が長くなるので、SBGは今後、投資会社になるんだということを、説明を端折って、これまで3~4年間言ってきました。

でも本当にSBGは、普通の単なる投資会社なんだろうかということは、私自身もどういうふうに説明したらいいのかというモヤモヤ感が、この3~4年間ずっと鬱憤のようにたまっていました。

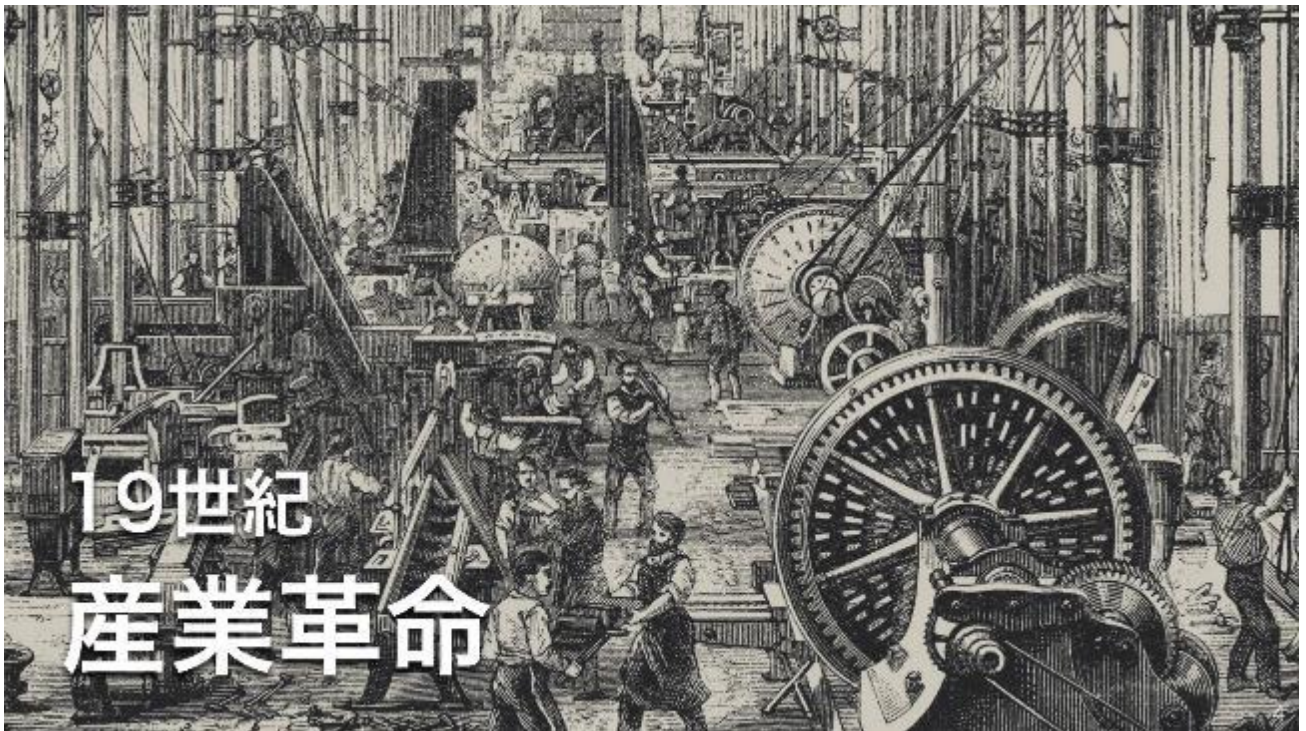




# 情報革命の資本家

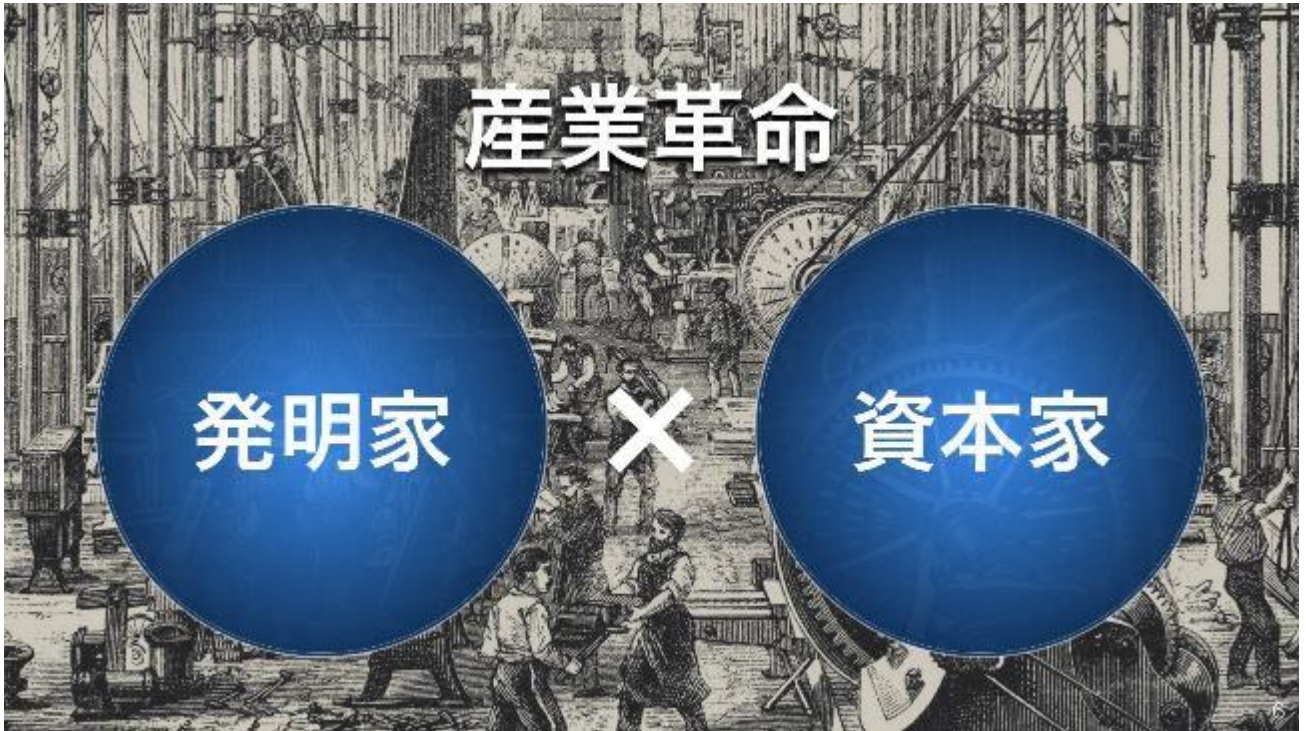
3

今日改めて、SBG とはなんぞやということを定義させていただきたいと思います。SBG とは、情報革命の資本家であるということです。「情報革命の資本家」、これまた一体どういうことかと思われると思いますので、これから私のプレゼンでその意味を説明したいと思います。



19世紀に産業革命がありました。皆さんご存じの通りですね。





この産業革命は当時、本当に名を成した発明家の皆さんが非常に頑張ったわけですね。

でも発明家だけでこの産業革命が成り立ったかという、私はそう思いません。この発明家と、同じようにリスクを取って資本を提供した資本家がありました。



代表的な例で言いますと、産業革命はヨーロッパで始まったんですが、発明家の代表例としてワットがいますね。また、ヨーロッパで大変活躍した資本家としてロスチャイルドファミリーがいました。



た。もちろん他にも発明家はいましたし、資本家もいたのですが、この2人が産業革命で最も活躍した立役者だったのではないかと思います。

**資本家**



**資本家として  
産業革命を牽引**

**ロスチャイルド**

8

ワットは有名ですが、資本家としてのロスチャイルド。彼のことが十分知られているのか、評価されてるのかという意味で、私はここに光を当ててみたいと思います。

**ロスチャイルドの主な投資**



**鉄道**  
(物流革新)

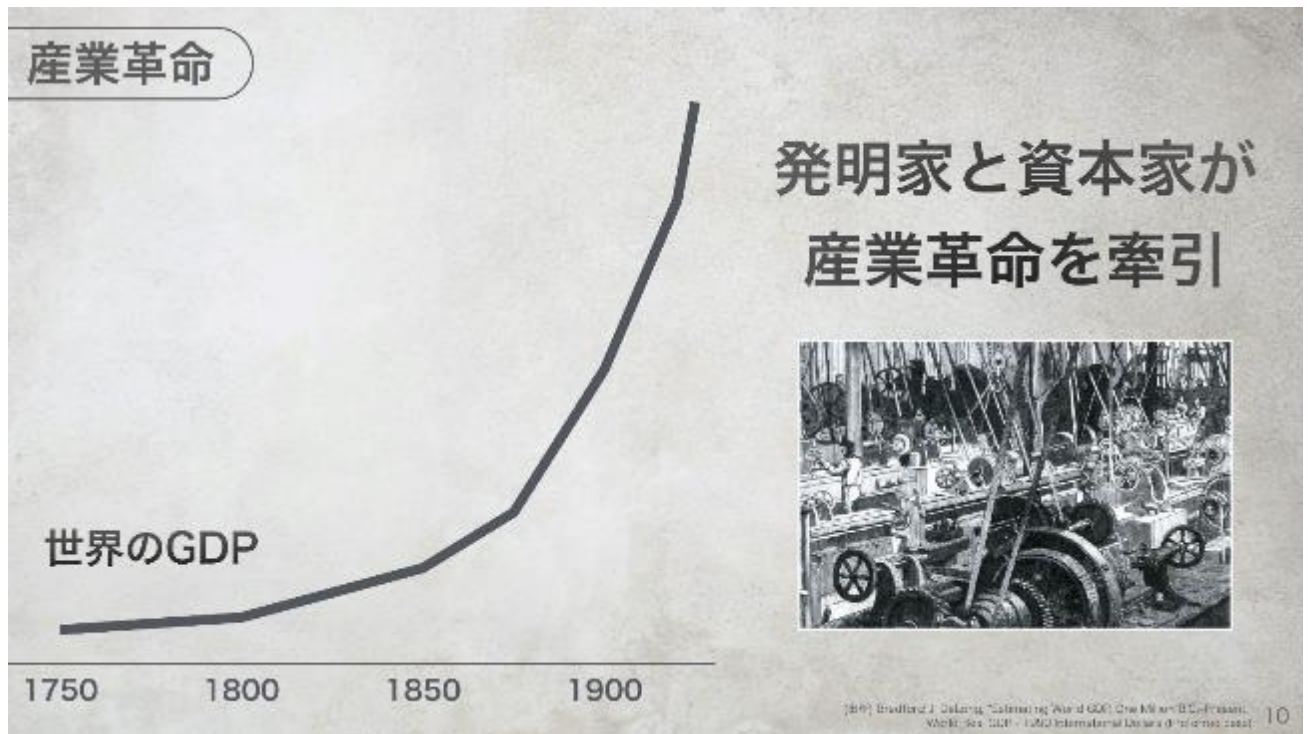


**油田**  
(エネルギー供給)

9

ヨーロッパで産業革命が始まったわけですが、例えば、当時生まれたばかりの鉄道はワットたちが蒸気機関でつくったわけですが、ロスチャイルドが大きくリスクを取って莫大な資金を提供しました。

油田、こちらも同じように、ロスチャイルドがリスクをとりながら、大きな投資を行っていったわけです。



産業革命の資本家といえば彼がまさにその代表例にあたると思いますが、発明家と資本家が産業革命を牽引し、世界の GDP はその後、どんどん伸びていったわけです。

# 21世紀 情報革命

11

それから約 200 年経って、21 世紀には情報革命が大きく花咲こうとしています。

## 情報革命

起業家

×

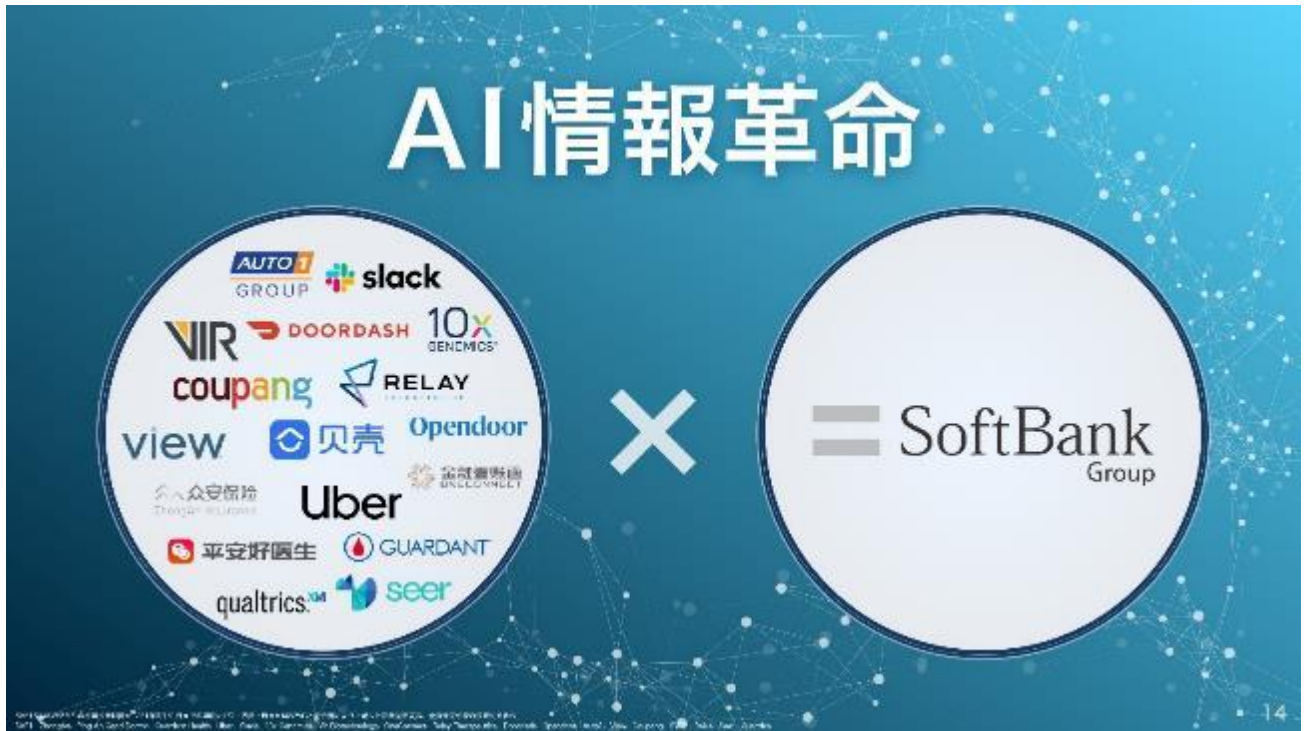
資本家

13

情報革命において、発明家に相当するのが起業家だろうと思います。アマゾンのジェフ・ベゾス、あるいはアップルのスティーブ・ジョブス、マイクロソフトのビル・ゲイツ、グーグル、フェイスブック、いろんな会社が、彼ら発明家、起業家によって創業され、情報革命がスタートしています。



同じように、情報革命の起業家に、資本家が多くの資本を投入することで、情報革命が牽引されていったわけです。



SBG は、これから特に情報革命の最先端となる AI を使った情報革命、こちらに注力したいと考えています。

おそらく AI 領域の情報革命において、資本を最も大きく提供しているのが、われわれ SBG なのではないかと自負しています。



AI  
自動運転



AI  
医療



AI  
金融



AI  
教育



AI  
小売

AIによって、自動運転、医療、金融、教育、小売、さまざまな業界がもう一度再定義されようとしていると私は思います。

## Vision Fund 1, 2 + LatAm Fund 264社 (投資委員会承認済で投資完了前の44社を含む)

### SVF1 (92社)



### SVF2 (129社)



### LatAm (43社)



SVF1, SVF2 264社が投資しているファンド  
LatAm Fund SEIの運営しているファンド

VISION FUND 1, 2, LATAM FUND 1, 2, 264社が投資しているファンド  
VISION FUND 1, 2, LATAM FUND 1, 2, 264社が投資しているファンド  
VISION FUND 1, 2, LATAM FUND 1, 2, 264社が投資しているファンド

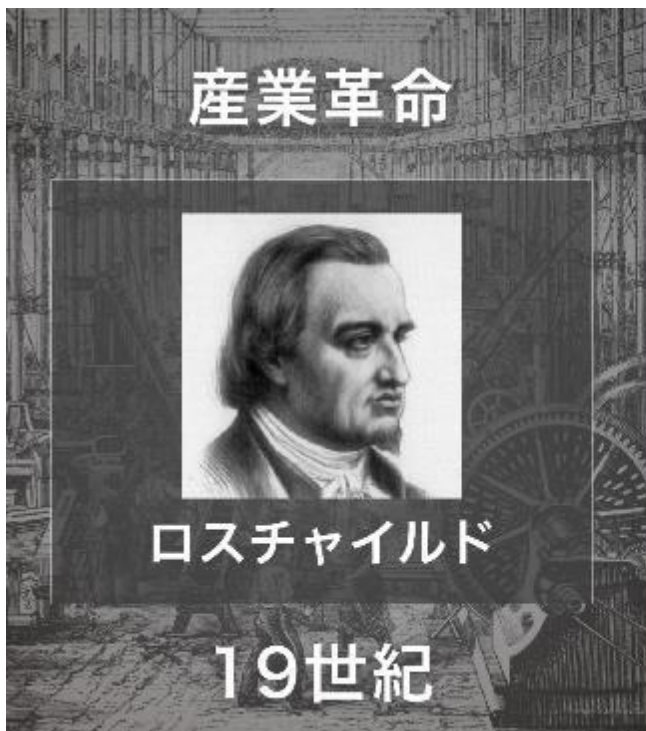
SVF1、2、そしてLatAm ファンドを通じて264社、220社の会社にお金を投じました。これらのほとんどの会社がまだ利益を出してないんですね。ほとんど利益を出してない会社に、われわれがリスクを取って投資していつてるわけです。資本家として投資を行っているわけですね。





産業革命は、人力が機械に置き換わるという大きな流れでした。

情報革命は、機械をこれからAIに置き換えていく、このような革命であると認識しています。



産業革命の資本家としての中心人物がロスチャイルドであったとするならば、われわれ SBG は情報革命のキープレーヤーになりたい、資本家になりたいと、このように思っているわけです。



# 情報革命の資本家

21

情報革命の資本家、これが SBG の新しい定義といたしますか、そのような位置づけとして、今日は表現させていただきたいと思います。

## 資本家 ソフトバンクの最重要指標

純利益

= 5兆円

純利益(億円) 2016年 10月期 連結決算 2016年10月期 24

この資本家としての SBG にとって重要指標は何だろうかということです。

多くの会社が純利益を一つの物差しとして事業を行っていますが、われわれ資本家としての SBG にとっては、昨年度純利益を 5 兆円出しましたが、これが最も重要な指標だとは私は思っていません。



これまでも言ってきましたが、時価純資産 (NAV)、われわれが資本家として保有している株式の価値から、われわれの純負債を差し引いた部分ですね。持っている資産から借入を差し引いた部分が時価純資産ですが、この NAV (Net Asset Value) がわれわれにとっては最も重要な指標だろうと思っています。

# 資本家 ソフトバンクの最重要指標

# 26兆円 =

# 時価純資産 (NAV)

2021年3月31日現在 26

このNAVが今年の3月末時点で26兆円でした。今日現在、約25兆円ぐらいですが、毎日上がったり下がったりします。



この25年間を振り返ってみると、SBGのNAVをヤフーが牽引した時期もありました。次に、ソフトバンクモバイルが牽引しました。最近ではアリババが牽引していましたが、直近ではSVFが成長を牽引していると。



四つの時期、何が牽引しているかと言えば、このように牽引者の中軸がだんだんと変わっていき、最近では、私自身、ほとんどSVFの事業に集中しているということです。



振り返ってみますと、SBGはインターネットの揺籃期からさまざまな投資を行ってきたわけですが、資本家というには当時は大した資金は持っていませんでした。

いくばくかのお金を投資していったわけですが、この27年間、毎年約43%複利で利益を出してきた、投資に対する利回りを出してきたということです。

最近、銀行の金利が預金しても1%に満たないという状況ですから、43%がいかに大きな数字かということだと思います。多くの資金、資産運用会社、彼らの成績はですね、8%だとか10%、12~13%だと思いますので、世界的な彼らと比べてみても、この43%というのは、しかも27年ぐらいの間においては、それなりに誇れる実績ではないかなと私は思います。

# SoftBank Vision Fund 1+2 (2021年3月末)

## (SBG (LP) + 成功報酬)

### 普通出資IRR

# 43%

	SBG (LP) + 成功報酬 普通出資IRR
SoftBank Vision Fund 1	39%
SoftBank Vision Fund 2	119%

SVF、昨年の頭ぐらいまでは、本当にケチョンケチョンに言われてました。孫正義の眼力はもう年取ってしまったとか、さまざまな意味でお金に目がくらんだとか、利益も薄くなって髪も薄くなってとか。そこまでは言われてませんか。

いろんなことを言われましたが、やっところちかもV字回復して、SVF1と2の4年間での累積が、毎年43%の利回りで利益を出し続けていったと。価値を増やしていった実績が誇れるような状況にまでなってきました。

そうはいつでも反省すべき点は多く、もう名前を思い出すだけでちょっと顔が恥ずかしくなるような、赤面する状況でしたが、多くのことを学んできました。でも実績はそれなりに出てきました。

# 投資家

# 資本家

34

SBG は、情報革命の資本家と、先ほどから資本家という言葉は何度も連呼していますが、投資家と資本家は非常に似た言葉ですが、私は決定的に似て非なるものではないかと思っています。

商売人と事業家という言葉、この似て非なる言葉を 40 年間、長く、決定的に違うということをこれまで何度か言ってきました。同じように投資家と資本家は、決定的に似て非なるものだと思います。

# 投資家

## お金を作る

# 資本家

## 未来を創る

36



投資家にとって最も大切なもの、最も目指すゴールは何かということ、お金を作るということだと思います。

資本家のゴールは何なのかということです。先ほどロスチャイルドの例を挙げました。私自身、SBGは資本家として何を目指してるのか、何を得られたら最も心が満足するのか、ゴールとして何が一番大切なのかということ、改めてここで申し上げたい。

資本家の私にとって一番大切な物差し、それは未来を創るということです。投資家はお金を作る、資本家は未来を創るということです。ロスチャイルドだとか、JPモルガン、彼らはまさに20世紀、21世紀の未来を、われわれの生活の礎をつくってくれたと思います。

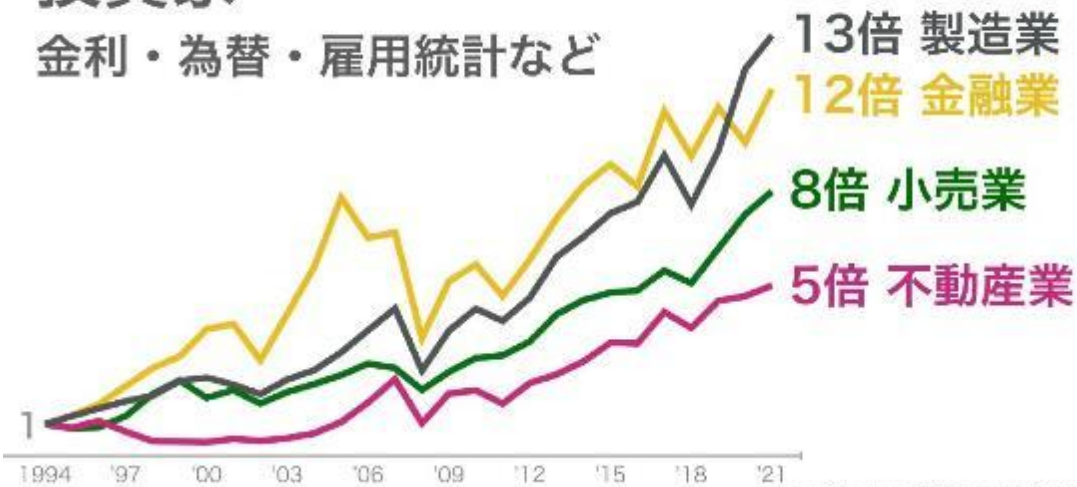
SBGは何を目指しているかということ、人々のための未来を創る。ここに一番の生きがい、使命を感じているわけです。

## 時価総額 (世界)

(1994年を1とした場合)

### 投資家

金利・為替・雇用統計など



製造業：金業、小売業、不動産業の時価総額を1とした場合、2021年5月31日現在の時価総額。金融業：SBG、CIBC、HSBC、JPモルガンの時価総額。小売業：ウォルマート、アマゾン、イケアの時価総額。不動産業：不動産の時価総額。38

投資家にとって、例えばこの25年間、それぞれの株式指標がどのくらいの成長をしたかということ、1994年を1とすると、そこから世界の時価総額、不動産業は5倍になりました。小売業は8倍、金融業が12倍、製造業13倍です。

この途中で、2008年にはリーマンショックでズドンと落ちました。その他にも、でこぼこがあるのは、その年その年の金利だとか、為替だとか雇用統計ですね。フェデラル・リザーブ（連邦準備制度）のいろいろな金融政策の方針だとか、そういうような発表によって、毎日、あるいは毎

年、大きく株価が変動してきたわけです。投資家は、これらの重要な指標を毎日、目を皿のようにして見ながら、意思決定をしています。

投資家にとってこれらは最も重要な指標ですが、資本家にとってこれらが一番重要な指標かという  
と、未来を創る資本家というのは、10年、20年、30年というスケールで、ものを考えるべきだと思  
っていますので、投資家にとっては重要な指標ですが、資本家にとっては、最も重要な指標だと  
私は思っていません。だから私は、これらの指標についての専門家ではないんですね。

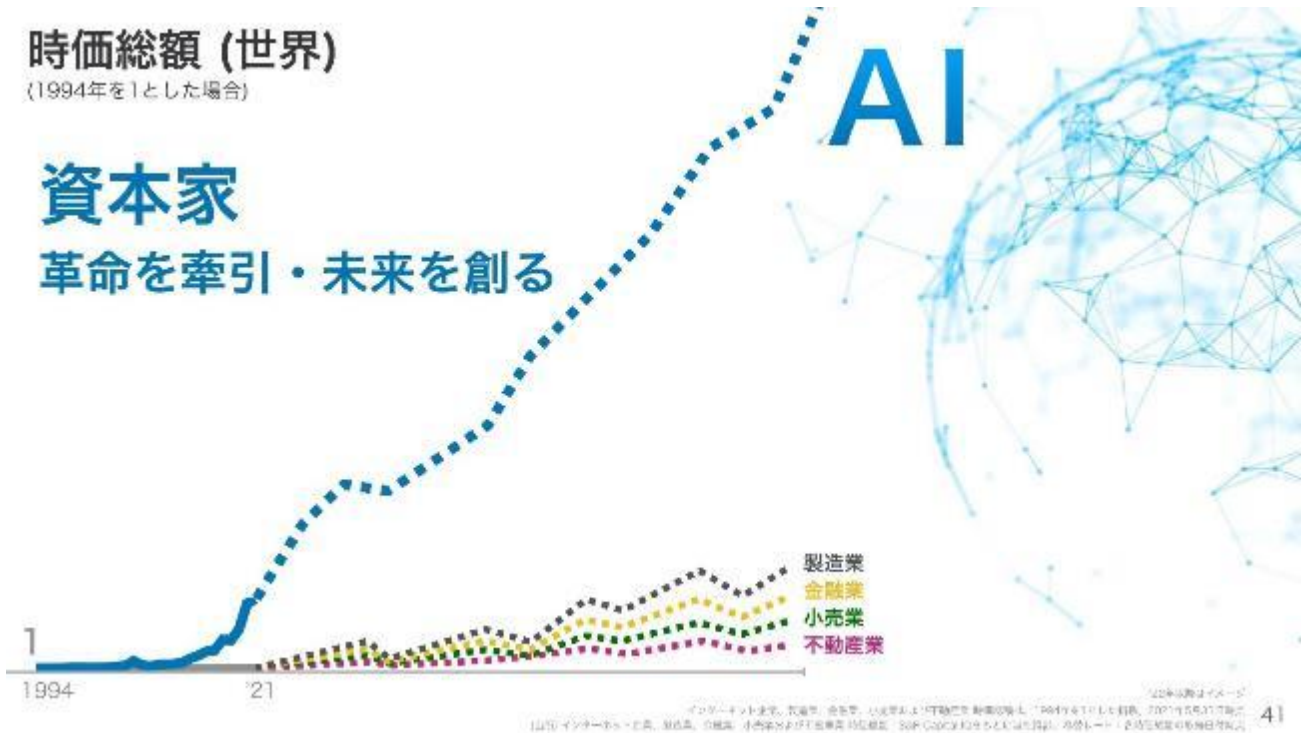


私がより見ているのは、技術がどのようにパラダイムシフトを起こしていくのかということ。資本家としてのわれわれ SBG は、インターネット業界が 27 年間で 34%伸びていった CAGR（年平均成長率）と。同じこの期間に SBG の IRR は 43%、インターネット業界も 34%、2,000 倍伸びたわけですね。

つまり未来を創るといのは、より大きなリスクを伴うわけです。われわれが当時投資した、資本を入れたインターネット企業は、ほとんど利益を出しませんでした。

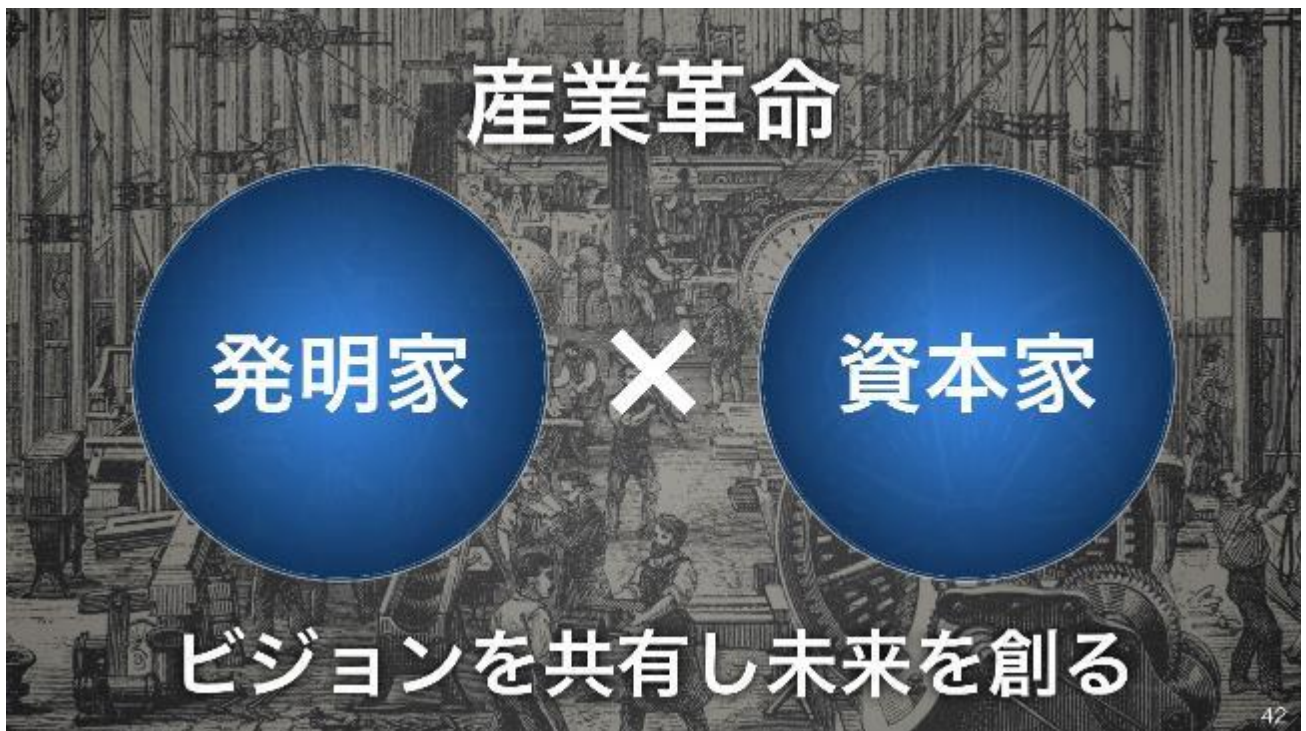
いくらわれわれがそこにお金を投じて、日本から最後のバブル男が来たとか、アメリカですらいろんな批判を浴びたわけですね。まだ利益を出していない会社、スタートしたばかりの会社に何十億、何百億というお金を投じるわけですから。普通の人から見れば気がおかしくなったのではないかと思われたわけです。2,000 倍のリターン、これが SBG だけではなくて、インターネット業界の上場した会社、全て 1 株ずつ買ったとしたら、それぞれの投下した資本が 2,000 倍になったというのが実際の実績です。

つまり資本家は未来を創る、より大きなリスクを伴うわけですが、リターンもより大きなものがある。実際にこのように出たということです。



そして、これからその情報革命はAIによってまだまだ続いていく。

21世紀の情報革命はまだ始まったばかりであるというのが、私の見方です。



このように、産業革命は発明家と資本家がビジョンを共有して、未来を創りました。



# AI情報革命

AI  
起業家集団

×

= SoftBank  
Group

ビジョンを共有し未来を創る

43

情報革命、特にAIの情報革命においては、これからAIの企業家とわれわれがビジョンを共有して、一緒に未来を創っていく、このような志でものを考えています。



自動運転で無事故の世界

44

例えば自動運転、AIを使った自動運転で事故のない世界。最近、日本では65歳以上の高齢の人々が、もうすでに人口の3分の1ぐらいになったんですかね。これからもっともっと高齢化社会が進んでいくことになるわけですが、だんだん年を取ると、運転の事故もより増えるわけですね。

自動運転で、年配の方々も、自分で運転手しなくても目的地に行けるということになれば、より安全な社会がやってきます。AI を使った自動運転で事故のない世界。

**AI解析で病死のない世界**

45

AI を使って病死のない世界。若くして、がんとか白血病とか、あるいは年を取ってアルツハイマーとかいろいろありますが、AI の解析で、さまざまな DNA 解析とか、編集とか、いろんな医学も、最近 AI の力で進化しています。

**遠隔教育で格差のない世界**

46



世界に何億人もの子供たちが、満足な教育を受けられない状況です。彼ら彼女らも遠隔教育で格差のない世界、AI を使ってこれから教育革命、まさに今始まったばかりです。



誰もが豊かな生活を送れる世界

47

Logos shown: 众安保险, policy bazaar, OakNorth, 众安保险, eToro, Extend, credits, VNLIFE, C2FO, paytm, Klarna, fetch

誰もが豊かな生活を送れる世界。



創造的な仕事に集中できる世界

48

Logos shown: Globality, mastox, 众安保险, Workboard, Artima Labs, trax, redalio, OneTrust, qualtrics, BEHAVIOX, STANDARD, 众安保险, jobtalent, sendbird, Beisen, COHEITY, MindTickle

創造的な仕事に集中できる世界。

自分らしく日々を楽しめる世界

49

自分らしく日々を楽しめる世界というように、AI を使って、全く新しいライフスタイルがこれから始まろうとしています。

SoftBank Group

VC (Venture Capital ?)

51

SBG は、VC (ベンチャーキャピタル) なのか。分かりやすくいえば巨大なベンチャーキャピタルなのかもしれません。



でも私は、SBG をベンチャーキャピタルだと定義するのも、ちょっと構えが小さいんじゃないかなと思うんです。



むしろ、SBG にとっての VC、これはビジョン・キャピタルだと。



情報革命の未来を創るビジョン・キャピタル、これが SBG だと。こう定義すると私の頭の中では非常にスッキリすると。



# 情報革命の資本家

## Vision Capital

54

情報革命の資本家、ビジョン・キャピタル。これがSBGです。



# 情報革命で人々を幸せに

「情報革命で人々を幸せに」。この思いは、創業第1日目から一度も変わっていません。

業態は何度も何度も変えてきましたが、一度も1日も変えてない。創業1日目からの思いは、「情報革命で人々を幸せに」という思いです。ぜひこれを情報革命の資本家として、ビジョン・キャピタル、ビジョン・キャピタリストとして、これを実現していきたいと思っています。

以上が私のプレゼンでした。

## 質疑応答

---

**孫**：それでは、ただ今から、質疑応答に入らせていただきたいと思います。

ご発言のある方は、ご覧の専用サイトよりご発言の入力をお願いします。それでは、ご質問に回答させていただきます。

**質問 1**：今年 5 月に自社株買いが終了したが、さらなる自社株買いの予定はないのか。

**回答**：自社株買いを去年発表して、多くの投資家の方、資本家の方々にとって 2.5 兆円の自社株買いは、日本経済史では最大規模だったと思いますので、ご評価をいただいたのではないかなど。株価も確か 3 日連続ぐらい、ストップ高をしました。

自社株買いは常に、私の頭の中では重要な選択肢の一つとして考えています。ただ、いつ、どのくらいの規模で行うのかは、さまざまなバランスを見ながら考えていかなきゃいけないと思います。

そのときのわれわれの財務バランスの状況、それから投資する投資機会、オポチュニティですね。先ほどから資本家になるんだと言っていますが、われわれが SVF として資金を投じていくチャンス、お金を入れていく対象の会社がどのぐらいあるのかという、状況も見なきゃいけない。もちろん株主の皆さんに、株主還元の一つとして自社株買いも大変重要なテーマだと思っています。

今日かもしれないし、明日かもしれない。3 カ月後かもしれないし、3 年後かもしれない。自社株買いはいつの時期になるかは分かりません。私自身も SBG の筆頭株主ですから、株価も大事です。

そういう意味で、自社株買いは常に、私の頭の中では重要な選択肢の一つとして考えていますし、経営陣で常に議論している重要テーマの一つということです。

**質問 2**：自社株買い以外で株価を上げられない事実をどのように認識しているか。必要以上に NAV が強調され、それを信じた投資家が高値づかみをしている実態と、併せて伺いたい。

**回答**：なかなか厳しいご指摘ですね。よう言うわと、僕は言い返したいんですが、自社株買い以外で株価を上げられないというのは、経営者、創業者の私にとっては悲しい言葉ですね。自社株買いは株主還元の重要な手法の一つですし、私も株主として自社株買いはいつもしたいと思っていますが、それでしか株価を上げられない、大概にしてほしい。

---



今、プレゼンしたばかりですよ。自社株買いをしていなくたって、われわれは業績をどんどん伸ばして行って、毎年 43%株主価値を増やしていったんですね。株主価値を 27 年間、毎年 43%とか伸ばしていったら、それは業績が良くなっているわけですから、株価は当然早めに上がったり、後からついてきて上がったりするんです。

ですから、自社株買いだけが株価を上げる、もうやらないのかと。大概にしてほしいと、私がどれだけ命がけで、SBG の経営をしているかということです。

資本家の SBG に NAV を強調され過ぎて高値づかみした。高値づかみというのもこれまた長期で見えていただいたら、2000 年のときのネットバブルの最後の 1 週間ぐらい、一番のピークのところで買った投資家の 1 人もがっかりさせないように、それをはるかに上回るレベルのものにしたいというのが、私の経営者、起業家としてのプライドです。それはなんとしてもやっていくつもりですが、短期的には上がったり下がったりするんです。

NAV が強調され過ぎていると言いますが、じゃあ NAV 以外に資本家としての SBG を測る、より適切な物差しがあるのかと私は問い返したいと思います。売上が一番大切か、違いますね。純利益が一番大切か、それも大切だけど、一番かというのと違う。何が一番かというのと、NAV だと。

皆さん、SBG の株、あるいはその他の会社の株を買いますね。買うにはいくばくか借金もあったとしますね。そうすると皆さんが買った株から借金を差し引いて、投資家としての皆さんは自分が投資したお金、株から借入金を差し引いて、その残りが自分にとっての純資産ですね、株価の時価純資産。

これがいくら増えたか。増えた分が SBG にとっての純利益です。ただ会計上、SBG は例えばアリババの株が純利益には反映されない。アリババの株が上がっても下がっても反映されないので、会計上の純利益は若干、本質的な部分とは違う。でも大きくいえば、純利益が増えたら NAV も増えると、純利益が減ったら NAV も減ると。

でも投資家の皆さんとして一番大事なものは、投資した時点の株の価値と現在の価値、この差額が増えたら嬉しいし、減ったら悲しい。

資本家としての SBG は、この NAV こそが一番重要で、ちなみに 1 株当たりの NAV、時価純資産に対して今日現在の SBG の株価は、約 50%近くディスカウントされています。ですから実力値としては、今の株価よりも非常に大きくあると私は見っていますが、ディスカウントを減らしていくには私ども経営陣が一生懸命努力しなきゃいけないし、株主の皆さんにもそれが理解され、評価されるように頑張っていかなきゃいけないというのが、私どもの責務だと思っています。

---

少し、少し長い目で見ていただきたい。自社株買いだけが株価を上げて、もうやらないのか、まだかだとか、どのぐらいやるんだと。そればかり気にされるのも、ちと悲しいということです。

**質問3：**株主還元が他社に比べて低い。配当自体や、配当性向を引き上げる考えはあるか。

**回答：**株主還元は、大きく言って二つありますね。一つは配当です。もう一つは、先ほどから出ている自社株買いですね。配当と自社株買いを足して、総株主還元と表現されています。

少なくともこの10年間ぐらい、何度も何度も自社株買いを行ってきました。去年だけじゃないんですね。この10年間ぐらい振り返っていただくと、何度も何度も自社株買いを行ってきました。この自社株買いと配当、この両方を足した総株主還元という意味では、かなり高い方に属しているんじゃないかと考えています。

ですから、配当と自社株買い、セットでこれからも株主還元は行っていきたいと思っています。

**質問4：**株価が1万円を超えることもあったが、株式分割は考えているか。

**回答：**株式分割そのものは株主還元でもないし、株価に直接関係ないんですが、多くの投資家がいやすくなると。SBG株は今、1単位が100株ということは70何万円かかるわけです。

最近は若い人とかいろんな方々が、より小口で参加したい、SBGの株主に参加したいという面もあると思いますので、そういう意味ではこれまでも時々、株式分割を行ってきました。今後も常に、選択肢の一つとしては検討を行うことはあると思います。

**質問5：**過去最高の純利益の発表以降、時価総額が10兆円近く下落している。短期、中長期の株価対策を伺いたい。また純利益の業績予想を出してほしい。

**回答：**純利益の業績予想は、大体、私、毎日SBGのNAV、現在価値を計算して見ているんですが、1日で2,000~3,000億、変わっていくんです。多いときには1日で5,000億、場合によっては2~3日で1兆円変わることもあります。

ですから、これを業績予想として出すのは不適切だな、あまりにも変動が大きいなと思います。

先ほどからNAVばかり強調するなという話がありますが、NAVが一番重要だと思っています。これが一番大きかった何日か前は、二十数兆円あったのが今は十数兆円、ご指摘の通り10兆円近く下がっているんですが、そのうちの2.5兆円は、先ほどプレゼンでもビデオの中でも解説があった通り、2.5兆円の自社株買いをし、全て株式を消却しています。

ということは2.5兆円分、時価総額がその分減るわけです。ですから、10兆円減ったといっても、2.5兆円は自社株買いの株式消却で減っているわけですので、1株当たりの時価純資産だとか、純利益は増えているわけですね。

NAVはピークが27兆円でした。3月末は26兆円、今は約25兆円ぐらいですから、1兆円ぐらいは下がっていると。NAVが1兆円下がったんだから時価総額も1兆円下がってもいいかなという感じはありますが、10兆円近く下がっているのは本当に何が何でも下がり過ぎだと思います。

逆にいえば、50%もNAVに対してディスカウントがついている今は、投資家の皆さんにとっては買いのチャンスじゃないかなと私は思いますけれども。私も株主ですから、自分の会社の株はいつも気にはなりますが、むしろ買いのチャンスじゃないかなと思います。長い目で見ていただきたいと思います。

**質問6：** 戦略的持ち株会社として、出資先のシナジーを生み出す環境をどのように醸成するのか。

**回答：** われわれは自動運転、医療、教育、ビジネスだとかフィンテック、さまざまな業界でAIを使っている会社のユニコーンばかりに資本を入れていますので、そういう意味では自然とわれわれのファミリーカンパニー同士が、シナジーを出し合う環境にはあるんじゃないかなと思っています。

われわれがたびたび一緒に集まって、食事をしたり何か未来を語りあったりする機会があるんですが、同じファミリーカンパニーの起業家たちが一緒に集まって、いろいろ話をする。それだけで、シナジーの機会がどんどん増えていくわけですね。

ですから、そういう場はこれからもどんどん増やしたいと思っていますが、一方、われわれは彼らの株式を51%以上持っている支配的株主ではないんですね。大体10%から40%の間の、筆頭株主である場合が多いんです。経営の自由、意思決定の自由は、起業家の彼らにあるわけです。われわれはアドバイスをしたり、未来を語り合ったりということは行うのですが、あくまでも彼らが自ら意思決定をする。

でもそういう機会を増やすことが、シナジーをより呼び込むのではないかなと思います。緩やかな連携です。

**質問7：** 出資先のシナジー追求と逆シナジー最小化のバランスを、どのように管理していくのか。グリーンシル、カテラの破綻の教訓を踏まえて伺いたい。

**回答：**これも難しいですね。われわれは良かれと思ってお互いを紹介したり、ということはたびたびあるのですが、あくまでも紹介し合う程度でして、どうしなさい、こうしなさいということを促すわけではないし、強制するわけでもない。

ポジティブなシナジーを出すのも緩やかなシナジーの連携ということになりますし、ネガティブな面がなるべく起きないように、これまたわれわれが何かを強制するとか、そういう株主の立場でもないし、取締役会でわれわれが過半数を持っているということでもありません。1名か2名、取締役を送り込んでいることは頻繁にあります。

個別の案件については、それぞれケースバイケースがあらうかと思いますが、基本的にはわれわれが何かを強要するとかはもちろんです。プラスの面でもマイナスの面でも、緩やかな連携が良い意味で、プラスの面がたくさん出る場合のほうが多いと思うのですが、そういう緩やかな連携をこれからも推し進めていきたいと思っています。

## 修正動議

修正動議が出ました。株主さまより、議案につき修正の動議が提出されました。第1号議案に関して、配当性向を30%にするというものです。それからもう一つ動議が出ていますね。無配にするという動議。まったく逆ですね。配当性向を30%にしなさいという動議と、むしろ配当は要らない、無配にすべきだという動議と二つ、相反する動議が出ています。

これらの動議については原案と一括して審議の上、採決については後ほど原案の採決のときに併せて取り扱わせていただき、その際には原案から先に採決をさせていただきたいと思っています。

この進め方に賛成いただける方は、専用サイトに表示されている拍手ボタンのクリックをお願いします。たまたま真逆の動議が両方出ていますので、皆さんよく検討いただきたいと思います。

それでは、これより投票の結果を確認しますので、しばらくお待ちください。現在集計中です。

集計の結果が出ました。提案に対して賛成が過半数に達しましたので、そのような集計の仕方をするかたちで進めさせていただきたいと思っています。全てを一括して、原案のほうから先に決を採るかたちです。

---



## 質疑応答（続き）

**質問 8：** 昨年副社長 3 名が取締役を退任した。後継者の考え方が変わったのか。現時点の、後継者の考え方を伺いたい。

**回答：** 副社長は、あくまでも業務をそれぞれ執行する意味での、執行役としての副社長。マルセロとラジーブは今日現在もわれわれの重要な業務執行の副社長として、その責務を担い続けています。

一方 ESG 投資家からは社内の取締役が多過ぎる、むしろ、社外取締役の比率を増やすべきだとの意見もあり、今回の原案でも社外取締役比率が増え、社内の取締役の数を減らしています。

マルセロ、ラジーブは取締役ではなくて執行を行う副社長ということですが、あくまでも業務執行の副社長と後継者は別物でして、後継者はより長期の観点で、最重要テーマの一つとして、私の頭の中で常に考え続けています。

副社長という職務、タイトルは、後継者と直接は連動していません。もちろん彼らが後継者になる可能性も全くゼロだとは考えていませんし、可能性は常にあるわけですが、後継者は副社長というタイトルに関わらず、これから若い人、あるいは外からの人、中からの人、SVF で投資している投資先の経営者も含めて、いろんな候補の中からこれから選んでいきたいと思っています。

**質問 9：** バーチャルオンリー株主総会を可能とする定款変更について、私は孫社長の話を直接聞きたいと考えているが、今後の総会の開催方法について伺いたい。VR 技術を総会に使えるのか。

**回答：** バーチャルオンリーの総会は、こういうパンデミックのようなときは、やむを得ずやる必要がこれからも出てくることは考えられます。また、世界中に株主がいますので、株主の皆さんが単にインターネットで視聴するだけではなくて、決議に参加できる。海外からでも参加できるという意味では、オンライン総会は意義があると思っています。

これからもこの部分の機能は続けていきたいとは思いますが、一方直接、生で同じ会場で、同じ空気を吸って総会に参加して、僕と直接空気感を味わいたいという株主の方がいるのは、私にとっても大変嬉しいことですし、私も直接株主の皆さまの表情だとか、空気感を感じたい部分がありますので、この両方が同時に行えるように、会場でも参加できる、またオンラインでも投票できるという両方を兼ね備えたような総会を、これから考えていきたいと思っています。

**質問 10：** スローモーション MBO を含めた、MBO の可能性について伺いたい。

**回答：**いろいろなことがあり得るんですが、これはコメントすべきじゃないでしょうね。コメントは難しいです。今まで通り、ノーコメントとさせていただきたいと思います。

**質問 11：**ワイヤーカードやグリーンシルに関する報道があります。今後のガバナンス体制に関し、孫社長の考えを伺いたい。

**回答：**ガバナンスは、上場会社の経営を行っていく上では、経営者の姿勢として大変重要なものだと思います。多くの株主の皆さまの資金を預かって、われわれ経営陣が執行していくわけですから、このガバナンスについては私自身も非常に気をつけてやっていくべきだと思いますし、取締役の皆さんもここは最も重要なテーマの一つとして、しっかりと管理義務を果たしていく。

われわれ経営陣は、多くの投資を毎日のように行っていますので、資本家と先ほど申しているように、未来を創ることに一番資本を入れていきたいと思っていますので、あまり財務的なテクニックで、短期的なものを追いかけることに重きがいかないように、また、よりいろんなコンプライアンス、さまざまなルールを守りながら、しっかりと管理をしていきたいと思っています。

**質問 12：**SBKK やワイモバイルの株主優待は復活させないのか。できない理由を教えてください。

**回答：**これは SBKK、ワイモバイルも SBKK の一部です。ヤフージャパンも今 Z ホールディングスになりましたね。皆それぞれ独立した上場会社ですので、このような点については、彼らの経営陣が意思決定していくべきテーマ。親会社としての私が、経営者としてコメントするような内容ではないと思います。

**質問 13：**アーム売却は安過ぎたのではないか。エヌビディアの株式を 20 から 30% 握るような交渉はできなかったのか。また各国当局の承認見通しを伺いたい。

**回答：**アームの価値は、私はまさに未来を創るという意味でいえば、大変重要な会社だと思っていますし、大変価値のある会社だと思います。できることならば手放したくない気持ちは、最初からずっと持っていましたが、一方われわれにとっては去年の 3 月、パンデミックがこれから起きていくかもしれないということで、4.5 兆円の資金化プログラムなどを発表し、それを実行していくテーマの一つとしてアームも考えたわけです。

売りたくない気持ちも残っていましたが、アームを全部現金で手放すのではなくて、その対価の 3 分の 2 はエヌビディアの株式と交換をする方法で行いました。

われわれがアームを買うのに投じた資金は、32 ビリオン、1 ドル 100 円ならば 3 兆 2,000 億円ですね。当時 1 ドル 100 円だったかどうかは忘れましたが、3 兆円ちょっとで買ったものが 40 ビリオン、約 4 兆円で売却としたわけです。その 3 分の 2 はエヌビディア株で株式交換ですね。その

エヌビディア株が1株当時485ドルだったと思います。これが今700何十ドルかになっています。1.5か1.6倍ぐらいになっています。ですから、そういう意味では5兆円を超える、6兆円近いお金で売ったことになります。ですから、少なくとも買った値段よりはるかに大きな、倍近い価値になったと。

当時はアーム、高く買い過ぎだと多くの方にも言われましたし、3,000億でも買わないと言われたりもしましたが、アームの価値は立派なものだと思っています。

本当はエヌビディアの株、20%、30%もらえればもっとよかったとは思いますが、これは交渉の相手があることですから、あのようなかたちで落ち着きました。

各国当局の承認の見通しについては、私はいけると信じています。エヌビディアとアームは直接重なった事業を行っていません。直接競合しているわけではないと。ですから、いわゆる独禁法に触れるような内容ではないと思いますし、各国当局の承認は予定通り下りるのではないかと、私は信じています。今、私は順調にそのステップが進んでいると考えています。

**質問 14：**襟川さんの起用を決めた、正直な理由を教えてください。

**回答：**正直な言って、どういう聞き方だろうなと思いますね。正直に襟川さんは素晴らしい起業家であり、経営者だと思います。

わが業界の中でも非常に長く、大変な慧眼で素晴らしい経営をしてこられたし、われわれSBGの取締役は男性ばかりであった中で、女性の取締役を増やすべきだという声を多くの株主、あるいはその他の方々からご指摘がございました。

川本さんが、女性を代表するようなかたちで取締役に入っていました。川本さんが人事院の総裁に就任されるということで、そういう意味では襟川さんが、少なくとも女性の取締役として経営陣に入ることは、大変意義のあることだと思います。

女性、男性ということに関わらず、襟川さんは経営者として素晴らしいと思いますし、私は知らなかったんですが、たまたま長くSBGの株主でもあったということで、わが社のこともよくご存じです。ゲーム業界で、本当に揺籃期の頃から一貫して成長してこられて、立派な経営をしておられると。

そういう意味では、私の尊敬する経営者、起業家のお一人ということで、取締役に参画いただきたいとお願い申し上げ、承諾いただいたということです。

**質問 15：**社外取締役が何社も兼職していますが、問題ないとお考えですか。

**回答：**別に問題ないと思っています。有能な経営者、あるいは有能な取締役の方は、これは欧米でもそうですが、いくつか兼務してもむしろそれが他流試合として、いろんな会社の素晴らしい点をどんどんと学んでおられますし。

私も何社か取締役を兼務したりしましたが、大変大きく学んだり、あるいは指摘したりということで、むしろ一つの会社だけしか知らないよりも良いことだと考えています。

**質問 16：**ガバナンス体制がよく見えない。どれだけの取締役が孫さんにノーと言えているのか。報酬決定プロセスも含めて説明してほしい。

**回答：**外からわれわれの取締役に新たに就任されたとか、あるいはオブザーバーとして参加された方、よくおっしゃるんですが、SBG、外から見ていたときには孫 正義のワンマンショーじゃないかと、独断でいろいろやっているんじゃないかと思っていたが、実際に会議に参加してみると議論百出で、いろんな耳の痛い話も直接がんがんとあると。

私も一生懸命言い返すんですが、言われて言い返してという、このやり取りが良いことだと私は思っていますので、むしろ議論は常に活発に出ていると。私もたびたびその議論の結果、最初の案を途中で修正したり、引っ込めたりということもあります。

もちろん、私が信じている内容については一生懸命抵抗したりするんですが、そのプロセスの中でしっかり決まっています。

報酬決定のプロセスも含めて、今、指名報酬委員会が何度も開催されて、そちらでいろんな議論を行っています。そういう意味では、プロセスはしっかりできていると思っています。

**質問 17：**役員候補に柳井さんの名前がない。柳井さんが去った理由を知りたい。

**回答：**柳井さんには本当に感謝しても感謝し切れないぐらい、ソフトバンクがYahoo! BB を開始して、毎年 1,000 億近い赤字を出して、一番苦しいときにわれわれの取締役に参加をいただきました。

それから、まさに耳の痛い諫言を何度も何度もいただきましたし、大体取締役会で私が何か提案すると、最初にノーから始まると。「孫さん、駄目だよそれは」というところから始まって、一生懸命そこで議論して、最後は納得していただいたような件もたくさんありましたし、まさに今言いましたように修正したことも何度もありました。

ですから、柳井さんには心から感謝申し上げますし、柳井さんが今 SBG の取締役にいないことで、大変寂しい思いをすることは今でもたびたびあります。本当に心から尊敬申し上げます。



柳井さんが僕におっしゃられた理由は、「孫さん、もう十分 20 年ぐらいやったし、忙しいからそろそろ勤弁してほしい」と。自分も「ユニクロ、ファーストリテイリングの経営に専念したいんだ」とおっしゃられました。本音はそうだったかどうかは分かりません。

本音は、事業家としての孫さんは好きだけれど、投資家としての孫さんは好きじゃないと、ずばっと僕におっしゃっていましたが、それが本音で辞められたのかもしれない。それは分かりません。

ただ、柳井さんは、僕には、もう 20 年ぐらいたったから、もういいだろう孫さんと。俺はもう自分の会社に、経営に専念するわと、こうおっしゃってました。両方だったのかもしれないね。自分の会社に専念したいことも本音でしょうし、投資家としての孫さん嫌いとおっしゃられたのも本当だと思いますね。

それも含めて、私もさっき冒頭に言ったように、この 3~4 年、説明が長くなるので面倒くさいから SBG は投資会社になりますと一言で端折って説明していましたが、今日はちょっとしつこいぐらい長々と、実は単なる投資家ではなくて、未来を創る資本家だと。Vision Capitalist だと、こういう話を今日はしつこく申しましたが、もしかしたら柳井さんに今度お会いする機会があれば、そういう思いをまたぜひお伝えして、近況報告もしたいなど。またゴルフでもしたいなどと思っています。

**質問 18**：60 代で後継者に引き継ぐとおっしゃっていましたが、今もその気持ちに変わりはありませんか。

**回答**：これは 19 歳のときに僕、言ったんですね。経営者としての人生 50 年計画だと。20 代、30 代、40 代、50 代、60 代と、この五つのステージの話をして、自分で決めて行って、60 代で後継者に引き継ぐことを 19 歳のときから公言していました。

最近、予防線としてすでに何度か言い始めてはいるんですが、最近は医学が進んだんだと、私はやる気いっぱいだと。資本家として生まれ変わった SBG は、60 代過ぎても 70、80 でも、バフェットさんもこんなに長くやっておられて、僕もやれるかもしれないという意味で、69 歳過ぎても社長をやっているかもしれないということ。

物理的年齢の 69 歳を過ぎるかもしれないということ、最近何度か予防線の意味も含めて、言い始めています。もしかしたら 69 歳を過ぎても社長をやっているかもしれません。あるいは、今は会長兼社長ですが、もしかしたら社長は誰かを任命して、僕は SBG の会長として 69 歳を過ぎても経営に深く関わっているかもしれません。

---

どうかたちでうまくバトンを引き継ぐかということは、これまた最重要テーマとして常に考えていますが、なんとなく69歳ぐらいまでには、次の後継者のある程度目星をつけて、この経営のかじ取りを徐々に、徐々に引き継いでいくことをやらねばならないと。

今、SVFの事業にほとんど集中していますが、併せてこの後継者選びは僕の最も重要な仕事の一つだと。これはぜひしっかりとやっていきたいと。

ちなみに、僕が19歳のときから、この五つのステージあるけれども、一番難しく一番大切なのは、このバトンを引き継ぐ60代の仕事だと、僕は19歳のときから実は言っていたんですね。名乗りを上げる、軍資金をためる、事業を成長させる、ある程度モデルを完成させる、最後は引き継ぐんだと。

この五つのステージの中で一番難しいのは、5番目のこの引継ぎだということ、まだ創業していない19歳のときから言っていたんですね。ぜひこれはしっかりと、何度か言っていますが、300年ぐらい成長し続けるような、活躍し続けるようなソフトバンクグループをつくりたいと。創業者としての使命、これはしっかりと引き継いで、長くもつような仕組みをつくっていくことだと私は思っています。これは本当にしっかりとやっていきたいと思っています。

それでは、質疑を終了し、決議事項の採決に入らせていただきたいと思います。

**司会：**議決権行使にあたりましては、専用サイトに表示されている全ての議案について賛否のご選択が完了した後に、行使するのボタンのクリックをお願いいたします。送信はまとめて1回で行うこととなりますので、ご注意ください。

**孫：**それでは、採決をこれから行ってまいります、次に進めていきたいと思っております。

## 採 決

### 第1号議案 剰余金の処分の件

第1号議案は、剰余金処分の件、つまり配当の件です。

## 採 決

### 第2号議案 定款一部変更の件

次に第2号議案は、定款一部変更の件です。

---

## 採 決

### 第3号議案 取締役9名選任の件

第3号議案は、取締役9名選任の件です。

## 採 決

### 第4号議案 監査役3名選任の件

第4号議案は、監査役3名選任の件。

---



# 採 決

## 第5号議案 監査役の報酬額改定の件

最後に第5号議案は、監査役の報酬額改定の件です。

以上につきまして、本議案の原案に賛成の方は賛成の選択をお願いいたします。選択が終わりましたら、行使するのボタンをクリックしてください。

それでは、これより決議の結果を確認いたしますので、しばらくお待ちください。今、集計中です。

決議の結果が確認できましたので、報告いたします。

まず第2号議案につきましては、3分の2以上のご賛成を得ました。また、その他の議案につきましても、全て過半数のご賛成を得ました。これで全ての議案につきまして、原案どおり承認、可決されました。

なお、先ほど第1号議案に関して修正動議が提出されていましたが、原案の可決により、否決されたものとして取り扱わせていただきたいと思います。

以上をもちまして、本総会の議事の全てを終了いたしました。これにて、第41回定時株主総会を閉会いたします。

## 新任取締役



川邊 健太郎



襟川 恵子



ケン・シーゲル

## 新任監査役



中田 裕二



大塚 啓一

先ほど襟川さんを正直に選んだ理由を答えなさいという質問がありましたが、尊敬しています。川邊 健太郎氏は、ヤフージャパン、Zホールディングスの社長ですね。ケン・シーゲルさんは、法律事務所の弁護士です。

# 退任役員



ロナルド・フィッシャー



サイモン・シガース



川本 裕子



須崎 将人



窪川 秀一

以上となります。本日は誠にありがとうございました。

---

## IMPORTANT INFORMATION

### Disclaimers

This presentation provides relevant information about SoftBank Group Corp. (“SBG”) and its subsidiaries (together with SBG, the “Company”) and its affiliates (together with the Company, the “Group”) and does not constitute or form any solicitation of investment including any offer to buy or subscribe for any securities in any jurisdiction.

This presentation contains forward-looking statements, beliefs or opinions regarding the Group, such as statements about the Group’s future business, future position and results of operations, including estimates, forecasts, targets and plans for the Group. Without limitation, forward-looking statements often include the words such as “targets”, “plans”, “believes”, “hopes”, “continues”, “expects”, “aims”, “intends”, “will”, “may”, “should”, “would”, “could” “anticipates”, “estimates”, “projects” or words or terms of similar substance or the negative thereof. Any forward-looking statements in this presentation are based on the current assumptions and beliefs of the Group in light of the information currently available to it as of the date hereof. Such forward-looking statements do not represent any guarantee by any member of the Group or its management of future performance and involve known and unknown risks, uncertainties and other factors, including but not limited to: the success of the Group’s business model; the Group’s ability to procure funding and the effect of its funding arrangements; key person risks relating to the management team of SBG; risks relating to and affecting the Group’s investment activities; risks relating to SB Fund (defined as below), its investments, investors and investees; risks relating to SoftBank Corp. and the success of its business; risks relating to law, regulation and regulatory regimes; risks relating to intellectual property; litigation; and other factors, any of which may cause the Group’s actual results, performance, achievements or financial position to be materially different from any future results, performance, achievements or financial position expressed or implied by such forward-looking statements. For more information on these and other factors which may affect the Group’s results, performance, achievements, or financial position, see “Risk Factors” on SBG’s website at [https://group.softbank/en/ir/investors/management\\_policy/risk\\_factor](https://group.softbank/en/ir/investors/management_policy/risk_factor). None of the Group nor its management gives any assurances that the expectations expressed in

---



these forward-looking statements will turn out to be correct, and actual results, performance, achievements or financial position could materially differ from expectations. Persons viewing this presentation should not place undue reliance on forward looking statements. The Company undertakes no obligation to update any of the forward-looking statements contained in this presentation or any other forward-looking statements the Company may make. Past performance is not an indicator of future results and the results of the Group in this presentation may not be indicative of, and are not an estimate, forecast or projection of the Group's future results.

The Company does not guarantee the accuracy or completeness of information in this presentation regarding companies (including, but not limited to, those in which SB Funds have invested) other than the Group which has been quoted from public and other sources.

#### Regarding Trademarks

Names of companies, products and services that appear in this presentation are trademarks or registered trademarks of their respective companies.

#### Important Notice – Trading of SBG Common Stock, Disclaimer Regarding Un-sponsored American Depository Receipts.

SBG encourages anyone interested in buying or selling its common stock to do so on the Tokyo Stock Exchange, which is where its common stock is listed and primarily trades. SBG's disclosures are not intended to facilitate trades in, and should not be relied on for decisions to trade, unsponsored American Depository Receipts ("ADRs").

SBG has not and does not participate in, support, encourage, or otherwise consent to the creation of any unsponsored ADR programs or the issuance or trading of any ADRs issued thereunder in respect of its common stock. SBG does not represent to any ADR holder, bank or depository institution, nor should any such person or entity form the belief, that (i) SBG has any reporting obligations within the meaning of the U.S. Securities Exchange Act of 1934 ("Exchange Act") or (ii) SBG's website will contain on an ongoing basis all information necessary for SBG to maintain an exemption from

---

registering its common stock under the Exchange Act pursuant to Rule 12g3-2(b) thereunder.

To the maximum extent permitted by applicable law, SBG and the Group disclaim any responsibility or liability to ADR holders, banks, depository institutions, or any other entities or individuals in connection with any unsponsored ADRs representing its common stock.

The above disclaimers apply with equal force to the securities of any of the Group which are or may in the future be the subject of unsponsored ADR programs, such as SoftBank Corp. or Z Holdings Corporation.

#### Notice regarding Fund Information contained in this Presentation

This presentation is furnished to you for informational purposes and is not, and may not be relied on in any manner as, legal, tax, investment, accounting or other advice or as an offer to sell or a solicitation of an offer to buy limited partnership or comparable limited liability equity interests in any fund managed by a subsidiary of SBG, including SB Investment Advisers (UK) Ltd. (“SBIA”), SBLA Advisers Corp. (“SBLA”) and any of their respective affiliates (collectively, the “SB Fund Managers” and each an “SB Fund Manager”) (such funds together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle collectively, the “SB Funds” and each an “SB Fund”). For the avoidance of doubt, the SB Funds include, among other funds, SoftBank Vision Fund L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund I” or “SVF1”), and SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund II” or “SVF2”), which are managed by SBIA and its affiliates, SoftBank Latin America Fund L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “SoftBank Latin America Fund” or “LatAm Fund”), which is managed by SBLA and its affiliates.

---

None of the SB Funds (including the Vision Fund I, Vision Fund II and SoftBank Latin America Fund), the SB Fund Managers (including SBIA and SBLA), any successor or future fund managed by an SB Fund Manager, SBG or their respective affiliates makes any representation or warranty, express or implied, as to the accuracy or completeness of the information contained herein and nothing contained herein should be relied upon as a promise or representation as to past or future performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation, or future performance of any successor or the future fund managed by an SB Fund Manager.

Information relating to the performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation has been included for background purposes only and should not be considered an indication of the future performance of the relevant SB Fund, any other entity referenced in this presentation or any future fund managed by an SB Fund Manager. References to any specific investments of an SB Fund, to the extent included therein, are presented to illustrate the relevant SB Fund Manager's investment process and operating philosophy only and should not be construed as a recommendation of any particular investment or security. The investment performance of individual investments of an SB Fund may vary and the performance of the selected transactions is not necessarily indicative of the performance of all of the applicable prior investments. The specific investments identified and described in this presentation do not represent all of the investments made by the relevant SB Fund Manager, and no assumption should be made that investments identified and discussed therein were or will be profitable.

The performance of an SB Fund in this presentation is based on unrealized valuations of portfolio investments. Valuations of unrealized investments are based on assumptions and factors (including, for example, as of the date of the valuation, average multiples of comparable companies, and other considerations) that the relevant SB Fund Manager believes are reasonable under the circumstances relating to each particular investment. However, there can be no assurance that unrealized investments will be realized at the valuations indicated in this presentation or used to calculate the returns contained therein, and transaction costs connected with such realizations remain unknown and, therefore, are not factored into such calculations.

---

Estimates of unrealized value are subject to numerous variables that change over time. The actual realized returns on the relevant SB Fund's unrealized investments will depend on, among other factors, future operating results, the value of the assets and market conditions at the time of disposition, any related transaction costs and the timing and manner of sale, all of which may differ from the assumptions and circumstances on which the relevant SB Fund Manager's valuations are based.

Past performance is not necessarily indicative of future results. The performance of an SB Fund or any future fund managed by an SB Fund Manager may be materially lower than the performance information presented in this presentation. There can be no assurance that each SB Fund or any future fund managed by the relevant SB Fund Manager will achieve comparable results as those presented therein.

The actual realized return on unrealized investments by an SB Fund may differ materially from the performance information indicated in this presentation. No assumption should be made that investments identified and discussed in this presentation were or will be profitable, or that investments made in the future will be comparable in quality or performance to the investments described therein.

Third-party logos and vendor information included in this presentation are provided for illustrative purposes only. Inclusion of such logos does not imply affiliation with or endorsement by such firms or businesses. There is no guarantee that an SB Fund Manager, an SB Fund's portfolio companies, any future portfolio companies of a future fund managed by an SB Fund Manager or SBG will work with any of the firms or businesses whose logos are included in this presentation in the future.

SBIA and SBLA manage separate and independent operations and processes from each other and those of SBG and any SB Funds managed by SBIA or SBLA are solely managed by SBIA or SBLA respectively.

### **免責事項**

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連

---



情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものでもありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績の保証を意味するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」

([https://group.softbank/ir/investors/management\\_policy/risk\\_factor](https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor))をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依存してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当

社グループの将来の実績の予測又は予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

## 商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

## 重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

#### 本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Investment Advisers (UK) Limited (以下「SBIA」)、SBLA Advisers Corp. (以下「SBLA」)及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社 (以下併せて「SB ファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド (文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」) のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、それぞれ SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」または「SVF1」) と SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」または「SVF2」) を含み、また、SBLA とその関係会社によって運用されている SoftBank Latin America Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」または「LatAm Fund」) を含みます。

SB ファンド (ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社 (SBIA を含む)、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらず表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又

は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

---



SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、本資料に記載されるパフォーマンス情報と著しく異なる可能性があります。本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むものである、又は、将来行われる投資が本資料に説明される投資と質又はパフォーマンスの点で同等であると仮定すべきではありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBIA 及び SBLA は、SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを運用しており、ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 を含む SBIA によって運営されている SB ファンドは SBIA 単独で運営され、またラテンアメリカ・ファンドは SBLA 単独で運営されています。

---